

小早川隆景

ものがたり ③



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

陶晴賢の反逆

山口を拠点に中国・九州地方を治めていた大内義隆は、出雲を拠点に山陰地方を治めていた尼子晴久に敗れてからは争いを避け、屋敷で和歌を詠むなどして過ごすようになりました。その生活ぶりに不満を感じ始めた家臣の陶晴賢たちは大内氏への反逆を企て、天文20(1551)年、長門国(現在の山口県)の大寧寺で大内氏を自殺に追い込みました。

大内氏が亡くなった後、その甥・義長が大内家の跡を継ぎましたが、実権を握ったのは陶氏でした。大内氏に付いていた隆景の父・毛利元就は、毛利家の勢力の弱さからしばらくは陶氏に従い、安芸国(現在の広島県

西部)と備後国(現在の広島県東部)で自らの勢力を強めていきました。天文23(1554)年、毛利氏は隆景たちとの話し合いで陶氏と戦うことを決め、わずか1日で陶氏の治めていた城を4つ攻め落とし、安芸国厳島(現在の廿日市市宮島町)を占領しました。

厳島合戦

毛利氏は陶氏との決戦の場を厳島に決め、弘治元(1555)年の春、陶氏をおびき寄せさせるため、厳島の北東部に宮尾城を築きました。これは、約2万人の陶軍に対して毛利軍は約4千人という兵力の弱さから平地での戦いを避け、陶氏を厳島におびき寄せた後は、その退路を断って陶氏を滅ぼすという作戦を実

行するためでした。毛利氏がこの作戦を成功させるために頼みの綱としたのは、隆景の率いる小早川水軍でした。毛利氏から応援を要請された隆景は、小早川水軍の指揮者である乃美宗勝を通じて瀬戸内一の水軍力を誇る村上水軍を味方に引き入れ、厳島に駆け付けました。



厳島合戦での毛利軍の動き

同年9月、陶氏は軍を率いて厳島に渡り、宮尾城の近くの塔の岡に軍の本拠を置きました。毛利氏は暴風雨の夜、厳島に上陸。暴風雨で毛利氏は攻めて来ないと油断していた陶氏の不意をついて、攻撃を開始しました。加えて、小早川水軍は大鳥居側の海で、陶氏の率いる大内水軍と戦いました。毛利氏が荒れた天候の中でも攻めることができたのは、味方の水軍の絶大な援護があるという自信があったためと考えられます。陶氏はわずかな兵と共に厳島の西側の

大江浦に行き、歌川貞秀「厳島合戦図」(所蔵:宮島歴史民俗資料館)を試みました。しかし、小早川水軍に付いていた村上水軍によつて味方の船が壊滅していたため、自らの負けを認め、命を断ちました。隆景の率いる小早川水軍の活躍もあり、この戦いは毛利氏の圧勝に終わりました。

参考文献 『三原市史 第3巻 通史編』昭和52年 三原市役所 編集兼発行 『歴史群像 4月号』平成6年 学習研究社



瀬戸内三原 築城450年事業
文化課
08448-649234

三原市の人口(4月30日現在) ※外国人住民を含む。 ※()内は前年同月との比較。

世帯数	44,061世帯 (-52)
人口	96,374人 (-1,093)
男	46,219人 (-445)
女	50,155人 (-648)

人口移動の詳細については 広島県 人口移動 月報 で 検索

税などの納期(普通徴収)

市県民税(第1期)	納期限 6月30日(金)
夜間収納窓口(19時まで)	毎週木曜日
航空機の騒音測定結果(4月分)(Lden)	▶正広局(本郷町善入寺正広)=51.0 ▶本郷局(本郷町船木川西上)=53.0

あ・と・が・き
つさ祭りまであと2カ月。今月の広報では神奈川県湯河原町とつさ交流をする児童を募集しています。この交流は、互いの児童がつさ祭りの時に、市町の紹介やプレゼンテーション、つさ踊りを披露するものです。私が交流の担当をしていたのは、もう15年も前の話になりますが、交流後、ひとまわり大きくなった児童の姿は、今でも忘れられません。今年で22回目を迎える交流。皆さんも両市町の児童たちの踊りをぜひ応援してください(H)